



診断

診断はまず病歴の聴取を行い、レントゲンや CT 検査などで他の下血を起こす病気との鑑別を行います。同時に、潰瘍性大腸炎とよく似た症状を起こす感染性腸炎と区別するために便の培養検査を行います。そして大腸内視鏡では潰瘍性大腸炎に特徴的な所見がないかを確認し、潰瘍性大腸炎が疑われれば組織検査を行います。潰瘍性大腸炎と診断がついたら、病気の広がり（全結腸型・左側結腸型・直腸型）、病期（活動期・寛解期）重症度（軽症・中等症・重症）にて分類を行います。



治療

（内科治療）

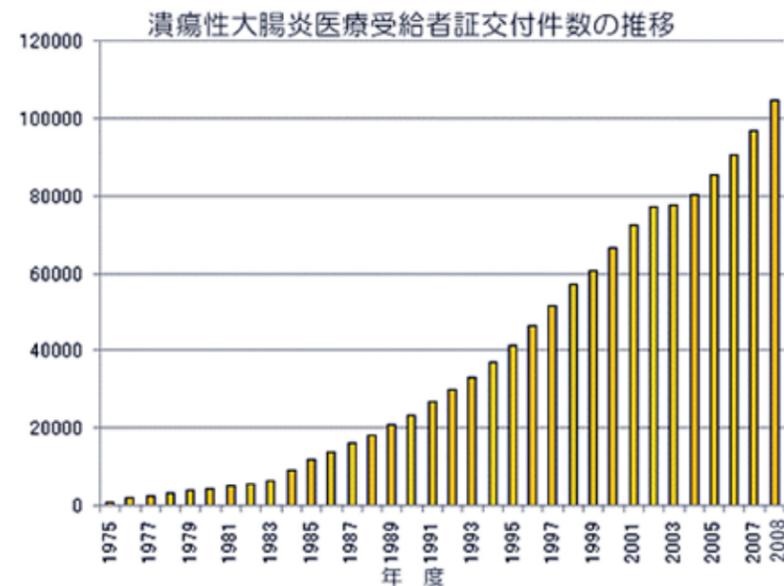
病気の分類に応じて治療を行いますが、通常まずは内科的治療（食事療法・薬物療法）を行います。食事は消化によいもの、繊維質が多くないものを摂取するよう心がけていただきます。また香辛料などの刺激物やアルコールは病状を悪化させる恐れがありますので、控えていただく必要があります。薬物治療に関しては、潰瘍性大腸炎と診断後、多くはアミノサリチル酸製剤が用いられます。この薬剤は内服・注腸どちらも剤型があり、内服薬は全結腸型・左側結腸型・直腸型いずれにも効果がありますが、注腸剤は左側結腸型・直腸型にしか効果はありません。多くの症例でアミノサリチル酸製剤服用開始後には下血や下痢といった症状が減少します。またこの薬剤は再発予防にも有効といわれており、現在副作用をなるべく少なく抑えた薬剤が開発され、長期にわたって使用されております。アミノサリチル酸製剤で効果がない場合、ステロイド薬や免疫抑制薬など他の薬剤が用いられます。

（外科治療）

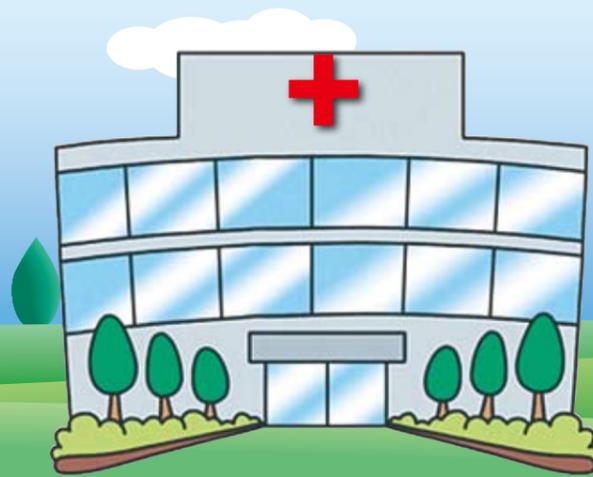
潰瘍性大腸炎では外科治療が必要となることがあります。それは①内科治療に反応しない場合、②炎症がひどくなり大腸が破れた場合、③潰瘍に癌を合併した場合、④病気の期間が長くなりステロイドの総使用量が多くなった場合、などに行われます。

さいごに

下痢の症状をきたす病気は今回挙げた潰瘍性大腸炎のほか、大腸の腫瘍性病変や過敏性腸炎など他の病気の可能性もあります。慢性的な下痢でご心配な方がいらっしゃいましたら一度外来への受診をご検討ください。



※潰瘍性大腸炎医療受給者証交付件数の推移
財) 難病医学研究財団 / 難病情報センター
<http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/009.htm>
(2011/4/28 アクセス)



蘇陽病院だより

～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」

特集

知って得する健康講座

第31集 潰瘍性大腸炎について

山都町立蘇陽病院 医師 坂口 将文

はじめに

潰瘍性大腸炎(かいようせいだいちょうえん)は近年わが国で増加している病気のひとつで、大腸の粘膜に炎症(びらんや潰瘍)をきたす炎症性腸疾患と呼ばれます。わが国では1970年代にはほとんどみられなかった病気ですが、年々増加の一途をたどり、現在10万人以上の患者さんがいると推定されています。発症年齢は若年者に多いのですが、高齢発症もみられます。男女比はほぼ1対1で性差はみられません。



原因

この病気の原因はこれまで、腸内細菌の関与や、免疫が正常に機能しない自己免疫反応の異常、または食生活の欧米化などが考えられておりますが、詳しいことはまだわかっていません。しかし前述のように以前わが国ではほとんどみられなかった病気ですので、ここ数十年の食生活の欧米化、特に脂肪が多く含まれる食生活への推移が発症の原因の1つと推測されています。



症状

慢性的な下痢、腹痛がみられます。症状がひどくなると下血、貧血、発熱、体重減少がみられるようになります。まれに電撃的に腹痛・下痢・下血にて発症される方もいらっしゃいます。



正常な大腸



潰瘍性大腸炎